

慈光新年

本年も何卒宜しく願い申し上げます。

平成もいよいよ最後の年となります。さて次はどのような年号になるか楽しみです。一方で年号は変わっても、永久に浄土真宗のみ教えは変わりません。

「真実の宗教とはそのようなものです」と親鸞聖人のお言葉からもうかがえます。しかし、移り変わるものに常に悩まされているのが私たちの現実でもあります。

既にご承知の方もいらっしゃると思いますが、私は10年頃前までは鍼灸治療院を営んでおりました。ということは、体の経穴(ツボ)を学んでいるということでもあります。さてそこで、私でもあらゆる寺院に法話をするため出向することがたまにあります。そのとき、ほとんどといってよいほどツボの話を組み込むようにしております。特に最近多くなりました。

理由はごく単純ですが、お座の場が和み、ご門徒もお寺さんも結構喜んでくれるからです。

少し想像してみるとお解りでしょうが、法話の最中に「皆さん、足の三里という

ツボをご存知でしょうか？」という話を振られたら少し興味を持ちませんか？その後、その三里の説明をするうちに、このツボは足の疲れや胃の痛みにも効果的なツボなんだということが分かってきますと、それまで眠そうにしていた人も、目を開き興味深く話を聞かれる様子を幾度となく拝見いたしました。

しかし、問題はそのツボの話からいかに仏様のお話に繋げてゆくかということです。それにはこちらが深く勉強(聴聞)してゆく必要があります、現在でもなかなか難しいなあと感じている中、昨年報恩講にお呼びしたご講師のお話を聴聞させていただきそのことにとても参考になるお話がありました。

では以下、内容をまとめてご紹介いたしますと、仏教が問題とする「老・病・死が思うとうりにならない」という話がありますが、その話を聞きますと頭では解っていないながらもどうも他人事のように聞いてしまい眠くなってしまいます。しかしそれとは逆の、いつまでも若く・元気に・美しくというような話になると非常に興

味が出てくる。これはどういう意味かということ、実は多くのことを善悪で判断している私がここにいるということです。「年を取って老けてゆくより、若くて美しいほうがいい」「病気より元気なほうがいい」そして「苦しんで死ぬよりポックリ逝ったほうがいい」などと思ってしまう。しかし、考えてみますと若くて元気な時も、年をとって老いてゆくこともすべて私の人生であります。そしてご講師は「阿弥陀様はその人生すべてを包み込んでくださっている仏様です」とお話下さいました。

私が法座で話すツボの話は「元気な体」ということに関係する話ですので興味を示されるのです。しかし元気な体であっても、病気がちな体であってもその一秒一秒がその人の尊い人生であり、その人生すべてを抱きとり、何の隔てや分断、差別のない浄土に導き仏にさせてみせると誓って「いつでもここにいるぞ、まかせよ」と告げているお言葉が「南無阿弥陀仏」のお念仏でした。今年もお互いお念仏の一年を過ごさせて頂きましょう。拝

● 写経と法話会

毎月9日開催

写経は『仏説阿彌陀經』を少しずつ進めています。
初回テキストをご購入下さい。(864円税込)

法話会では『正信偈』を少しずつあじわっていきます。

・1月9日(土) 14時～

・2月9日(土) 14時～特別法話会のため
変更になります。(詳細下記)

特別法話会 講師 義本弘導師

(毎年お越しのベテラン布教使です。大阪弁で解りやすくお話しさせていただきます。)

1・日時 平成31年2月9日(土曜)

14時～勤行『正信偈』

14時30分頃～ご法話 30分2席
講師 大阪府 浄行寺住職 義本弘導師

15時40分頃～茶話会(鹿児島かるかんでも
食べながら)

2・場所 妙蓮寺本堂(駐車場有)

琵琶語り「祖師聖人御一代記」

演者 安藤秀明師

(親鸞聖人のご生涯を琵琶の音色に合わせ、
語ってくださいます。)

1・日時 平成31年2月23日(土曜)

14時～『正信偈・和讃』

14時40分頃～琵琶語り

「祖師聖人御一代記」約60分

15時40分頃～茶話会(安藤先生もごい
っしょに)

2・場所 妙蓮寺 本堂(駐車場有)



2月の行事をお楽しみに!

【お問い合わせ】

江戸川区一之江 2-17-5

電話03-6231-4733

住職 友岡栄玄